

愛する人を守る

二つの言葉

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、私たちの想像をはるかに超えた被害をもたらしました。約180万人が暮らす熊本県でも、災害が発生しないという保証はどこにもありません。自分や大切な人の命を守るため、今一度、防災について考えてみましょう。

多くの命を救った奇跡

災害が起きたとき、あなた

を助けてくれるのは誰だと思
いますか。自衛隊や警察、消
防署の人だと思いませんか。

東日本大震災の死者・行方
不明者は、合わせて約2万人
を数えました。そのような大
災害の中、多くの子ども
の命が助かった地域があり
ます。

それは岩手県釜石市。同市
は津波による被害を受ける可
能性が高いため、防災教育を
徹底してきた地域です。その
教育を受けた子どもたちは、
避難に関して十分な知識を持
ち、訓練を積み、助け合う精
神を育んでいました。地震が
発生すると、釜石市の中学生
たちは、津波が発生すること
を想定し、自分の身を自分で
守りながら、小学生と保育園
児を連れて避難しました。
このことから、大きな災害

が発生した場合には、まず自
分の命は自分で守ることが大
切なのが分かります。

奇跡から学ぶ自助と共助

津波による釜石市の小中学
校が管理する生徒の犠牲者は
ゼロでした。それは「釜石の
奇跡」としてメディアなどで
報じられました。しかし、子
どもたちは教えられた通りに
行動しただけです。彼らに根
付いていた自分の命は自分で
守る「自助」と地域の人たち
同士で守り合う「共助」の精
神。「釜石の奇跡」は、奇跡
ではなく、当然の結果だった
のかもしれない。

あなたを守るのは、あなた
自身。そして、大切な人を守
るためには、お互いに助け合
うことが重要です。

「自助」と「共助」を知る
ことが、防災の意識を高める
ことにつながるのです。

熊本県 災害年表

手野の大地震
(昭和50年1月)



▶ 崩れた家屋の解体作業
をする自衛隊員

震度5。震源地は阿蘇カルデラ北東部。
手野地区、山田地区に大きな被害。負傷
10人、住宅の崩壊、道路損壊、山崩れなど。

白川大水害
(昭和28年6月)



県北中部を中心に発生した集中豪雨。
死者・行方不明者は500人超、家屋
全壊は1,000戸を超えた大水害。

幾度となく自然の猛威にさらされてきた熊本。過去にどのような災害が発生しているのでしょうか。熊本を襲った災害を年表で振り返ります。

Special Interview



交流が人を救い、救われる—

東日本大震災復興構想会議議長や防衛大学校長を務め、阪神・淡路大震災を経験した五百旗頭真さん。TKU 報道フォーラムのために来熊した五百旗頭さんに災害において重要なことは何なのかを聞きました。

阪 神・淡路大震災の時、私は兵庫県西宮市の自宅にいました。直下型地震のすさまじい揺れに生きた心地がしませんでした。室内を家具が飛び交うのを感じました。でも、家族全員が無事だと確認できたときは、心からホッとしました。

停電で辺りは真つ暗でした。人は、情報の暗闇の中です。あらゆる妄想をしてしまっています。「これほど揺れるのであれば、日本が沈没してしまふんじゃないか」とさえ思いました。その後、トランジスタラジオで淡路島が震源であることを知りました。

災害時に情報を得ることは、安心感を得ることです。情報のありがたみを改めて認識しましたね。

地 域コミュニティで支え合うことも、防災ではとても大事なことです。阪神・淡路大震災の時、救出された人が多い地域には「祭り」がありました。祭りには、住民同士が交流し、お互いに協力し合おうという雰囲気生まれる効果があります。そんな交流のある地域では、誰かが、がれきに埋もれたとしても「あそこには誰かいたはず」と助け合えるのです。こうし

た「共助」を進めるためには、日頃からのコミュニケーションが大切なのです。年に1回でも祭りやスポーツ大会などで交わりのある地域になることが、とても大切だと思います。人を助けるためには、自分の安全を確保することが大切です。自らが災害に対する強さを持つてば、人を助けることができるのです。

日 本は地震の多い国です。早急に東北を完全に復興させて、次の災害に備えなければなりません。東日本大震災を忘れず、この悲惨をかみしめつつ、必ず来るであろう次の大災害への減災に努めることです。

熊本県は、九州の中央に位置し、自衛隊など防衛拠点が集中しています。熊本県が自らの安全性を高めながら助ける能力を持つことが、日本全体にとっても大変重要なことだと思います。県民の皆さんも地域のつながりを大事にしながら減災・防災の心を大切にしてほしいと思います。

い お き べ まこと 五百旗頭 真 さん

◎ Profile

昭和18年兵庫県西宮市生まれ。京都大学法学部卒、同大学大学院修了。神戸大学大学院教授、日本政治学会理事長などを歴任。吉田茂賞、吉野作造賞など受賞多数。現在、防衛省防衛大学校長、東日本大震災復興構想会議議長を務める。68歳

熊本県内の広報担当者が一緒に制作した防災特集。地震や風水害などの自然災害は、私たちに突然襲いかかります。家族や恋人、友人を守るために大切なことは「自助」と「共助」でした。二つの言葉は、まず自分が生き延びることと日頃から地域のつながりを大事にすることの大切さを教えてくれました。愛する人を守るために、二つの言葉を忘れないでください。

(参考) 熊本県防災情報ホームページ (写真) 熊本県大水害写真集 阿蘇神社

台風19号
(平成3年9月)



倒れた阿蘇神社の水神木

瞬間最大風速60.9mの台風が阿蘇を直撃。午後4時からの2時間で家屋や農業施設を損壊。手野の大杉はじめ神社の大木が次々と倒れる歴史的な被害。

7.2水害
(平成2年7月)



記録的な豪雨により土石流が発生。坂梨地区を襲う。家屋が流失し田畑は泥土と流木に埋まる。7.2水害での死者11人。